

『時事直言』 No.1568 2022年9月16日

[HP] <http://chokugen.com/>

[FAX] 03-3956-1313

[mail] info@chokugen.com

[twitter 日本語] [t_masuda2019/](https://twitter.com/t_masuda2019)

[twitter 英語] [T_Masuda_eng/](https://twitter.com/T_Masuda_eng)

[instagram] [t_masuda2019/](https://www.instagram.com/t_masuda2019/)

[Youtube] [増田俊男チャンネル/](https://www.youtube.com/channel/UC...)



時事評論家 増田俊男

再度お送りする「小冊子 Vol.129 執筆中」

(若干訂正しました)

本誌は、故安倍晋三に捧げる「日本の安全保障総括」(永久保存版)と名付けた。

カイロ宣言、ヤルタ会談、ポツダム宣言と日本が無条件降伏に至るまでアメリカは他の戦勝国と対日利権を争った末、日本の主権者となったマッカーサーGHQ 総司令官は、国務大臣松本烝治の憲法改正要綱(1946年2月8日提出)を拒否、GHQ 民生局に1946年2月23日から7日間で作らせた日本国憲法(1947年5月3日施行)が現行憲法である。

日本統治に欠かせない天皇制維持を求めるマッカーサーと、統帥権を持つ天皇の責任を追及しようとする極東委員会(GHQ 戦勝国上部組織)との葛藤など詳しく述べる。

第二次大戦を裁く極東国際軍事裁判(1946年5月3日開廷)におけるキーナン米首席検事の、神聖なる裁判所における醜聞、暴言等による「世紀の大芝居」の裏にある真実を述べる。

日米安保は、何故サンフランシスコ講和条約(1951年9月8日)と同時に締結しなくてはならなかったのか。

アメリカの周到な対日洗脳である「日米安保は日本の安全の要」、そしてもう一つの「北方領土が返る日、平和の日」で日本はいかにアメリカの望む通りに誘導されたか。

沖縄の復帰(1972年5月15日)を可能にしたニクソン・佐藤の密約(「他策ナカリシヲ信ゼムト欲ス」(若泉敬、佐藤・ニクソン交渉黒子役が暴露))。

そして佐藤が非核三原則でノーベル平和賞が与えられた背景と沖縄の現実。

日中国交正常化(1972年9月29日)における田中・周恩来の密約が基で始まった尖閣諸島問題。「一つの中国は妄想に過ぎない」の理由。

まるで水車小屋に立向かうドン・キホーテのような安倍晋三の日本国憲法第9条改正の無意味さと不毛。

日本の真の安全保障達成に残された二つの可能性、「憲法作り直し」か「NATO 加盟」。

アメリカの国益、日本支配の為にセットされ、国会決議で変えることが許されない日本国憲法最高法規(第98条)を逆手に取る、救済日本の妙案が目前にある!

世界の選択は二者択一「虚偽の平和」か「真実の戦争」か。

それでも今の日本人は世界一の金持ちでいたい。

終わりに、サムライ増田が生涯を捧げて実行したいことをお話したい。

総て事実に基づいた「日本の安全保障総括」は、日本人の永久保存版です。

「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、事前にマスタ U.S. リサーチジャパン株式会社 (FAX: 03-3956-1313) までお知らせ下さい。